

【資料集 7】

Visākhā Migāramātā 関係資料

岩井 昌悟
本澤 綱夫
カタプンニョー比丘

はじめに

[1] ヴィサーカー・ミガーラマター (*Visākhā Migāramātā*) は、舎衛城における女性在家信者の代表的人物として知られている。釈尊教団に対する献身的な布施（雨浴衣の布施や8つの願はその典型）によって、舎衛城における釈尊教団の発展に多大の貢献をなしたことが伝えられているが、なかでも彼女が寄進したことによってその名を付された東園鹿子母講堂 (*Pubbārāma Migāramātu-pāsāda*) は、給孤独長者の寄進した祇園精舎と並び称される僧院として著名であって、ここを説処とする経典も数多く伝えられている。彼女の出自や事績について知ることにより、仏教伝播の範囲（アング国→サーケーター→舎衛城）や釈尊教団形成過程における女性の在家信者の役割等についての知見を得られることが期待されるので、ヴィサーカー・ミガーラマターの資料を取り上げることとした。

なお、ヴィサーカー・ミガーラマターの漢訳名にはつぎのようなものがある。

- 毘舍佉鹿子母；『五分律』（大正 22 p.078 上）など
- 毘舍佉無夷羅母；『四分律』（大正 22 p.868 上）など
- 毘舍佉母；『阿羅漢具徳経』（大正 02 p.834 中）など
- 鹿子母毘舍佉；『中阿含』202「持齋経」（大正 01 p.770 上）など
- 毗舍佉；『中阿含』210「法樂比丘尼経」（大正 01 p.788 上）など
- 維耶（丞相母）；『齋経』（大正 01 p.910 下）
- 墮舍迦；『優婆夷墮舍迦経』（大正 01 p.912 上）
- 惟閻（清信女）；『義足経』（大正 04 p.176）

なお本資料集では、原資料の名を用いるが、項目名などにおいてはヴィサーカーという名を用いた。

[2] 本資料集はパーリ聖典（ニカーヤと律）、漢訳諸阿含、漢訳諸律、パ・漢の註釈文献、大正蔵の本縁部所収の文献からヴィサーカー・ミガーラマターに関する記述をとり出し、整理したものである。

[3] 本資料集は次の構成をもつ。

- [1] にはパーリの原始聖典と漢訳の阿含および諸律蔵とに対応する記事を掲載した。
- [2] には漢訳資料に対応の見出されないパーリの原始聖典のみの記事を掲載した。

- 【3】には漢訳の阿含、律藏のみであって、パーリ語典籍に対応記事のないものを掲載した。
- 【4】にはパーリのアッタカターの記事と、漢訳の原始聖典以外の諸資料の記事を掲載した。これらのなかのごく一部には対応するものがあるが、多くは *Samantapāsādikā* と『善見律毘婆沙』のケースであって、ほとんど対応は見られない。
- 【5】にはパーリのアッタカターのうち、もっとも詳細な伝記を伝える *Dhammapada-aṭṭhakathā* (*DhA.*) と *Anguttaranikāya-aṭṭhakathā* (*AN.-A.*) を別建てにして掲載した。したがってこれ以外のアッタカター記事が【4】である。
- 【6】にはミガーラマターとは直接の関係はないが、参考のために東園鹿子母講堂を仏在処・説処とする経・律名を掲げた。これは本「モノグラフ」の第8号「原始仏教聖典の仏在処・説処一覧——コーサラ国篇」の該当箇所の記事を再録したものである。
- 〔4〕パーリ語資料については訳文とともに原文も掲げた。対照の便を考慮して、段落ごとに訳文を挿入する形をとっている。
- 掲載したパーリ語原文は原則としてPTSの刊本を底本とし、テキストの修正については各刊本の脚注（または巻末注）にあがる異読（ヴァリエント）を参照するにとどめた。しかしその限りで読解不能の場合、*Chaṭṭhasaṅgāyana* のCD-ROM（文末注で「ビルマ版」とはこれを指す）を参照して訂正した箇所もある。詳細は文末注として注記した。パーリ語原文中の〔 〕内の数字は底本のPTSのページの冒頭を示す。
- なおパーリ原文を記すにあたっては、原則としてPTSテキストをそのまま転記したが、適宜-（ハイフン）を入れてコンパウンドを区切ったり、カッコの形を変更したり、補ったりした場合もある。また鼻音 *ṇ, ñ, ṇ, ṇ* と *m̐* の表記は底本においても不統一であるため、本資料集においても便宜的になっている。
- 〔5〕漢訳資料は大正新脩大蔵経を底本とする漢文からの読み下しのみを掲げた。なおこれには行数は示さなかった。
- 〔6〕【5】の「ヴィサーカー・ミガーラマターの伝記を中心とする記事」においては *DhA.* の ‘*visākhāya vatthu*’ 全体を訳出した。*AN.-A.* にほぼ同様の記事が見られるため、それとの異同は単語レベルのものについては注記し、文章が異なっている場合は原文と訳文を対応箇所の直後に挿入する形をとった。（一方【4】では重複を厭わず、同様の記事も全体を挙げてある。）パーリ語原文の冒頭の D は *DhA.* の文章であることを示し、A は *AN.-A.* の文章であることを示す。DA の併記してある文章は共通しているものであり、単語レベルの異同は上に述べたとおりである。この伝記の中には【1】【2】【4】に対応記事が見出されるものがある。それについては注記によって対応を示した。

はじめに

[7] この資料集は、現在は東洋大学大学院文学研究科仏教学専攻博士前期課程の学生であるチャイトンディー・プラチャッポン（僧名はカタプンニョー）が学部の卒業論文として東洋大学に提出したものをもととしている。*DhA.*と*AN.-A.*のヴィサーカーの伝記のパーリ語原典からの和訳を中心としてまとめられたもので、これを岩井が訳文のチェックの意味をかねてもう一度全体を見直しながら、資料を補った。さらに漢訳資料の収集、読み下しについてはこれをすべて本澤が担当して、最終的に本澤と岩井でパーリ語資料と漢訳資料の対応を確認しながら編集作業を行った。